

わたし ことり すず かねこ み す ず
Level4_1: 私と小鳥と鈴と (金子みすゞ)

わたし りょうて
私が両手をひろげても

そら と
お空はちっとも飛べないが

と ことり わたし
飛べる小鳥は私のように

じめん はや はし
地面を速く走れない

わたし からだ
私が体をゆすっても

おと
きれいな音はでないけど

な すず わたし
あの鳴る鈴は私のように

うた し
たくさんな唄は知らないよ

すず ことり わたし
鈴と、小鳥と、それから私、

みんなちがって、みんないい

Level4_2: 彼は (千家元麿)

かれ 彼はどこにでも居る

せいめい 生命の火はどこにでも居る

どこ 何処にでもめぐり、どこ 何処にでも隠れて居る

き 気がつけば彼は露骨だ

かれ みず なか さかな みず なか 彼は水の中にもいる。魚となって水の中にいる

び 美くしい金魚となって瓶の中にも居る。笑いの中にも涙の中にも

かれ ひとびと あめ なか やみ なか 彼は人々がいやがる雨の中にも、闇の中にもいる

き なか おんな こども いぬ ねこ なか 木の中にもいる。女や子供や犬や猫の中にもいる

み 見よ、どこにでも彼はいる

ろこつ 露骨なる彼は

Level4_3: お菓子 (かし) (みずたに)
水谷まさる

わたしがもしも王子なら

家来を呼んで云いつけよう

子供をみんなつれて来て

おいしいお菓子を分けてやれ

二つのお手にのらぬほど

たくさんたくさん分けてやれ

けれど、わたしは王子じゃない

お菓子屋の店の前に立ち

今日もお菓子に見とれては

そういうことを思うだけ